

# フードバンクで生活弱者支援

品質に問題がないのに包装に汚れがあるといった理由で廃棄される食料品を集めて、福祉施設などに無償提供する「フードバンク」が広島市内で設立された。大量の食料品が捨てられる一方、食品値上げに苦しむ生活弱者も多い。資源の無駄遣いを減らす試みについて、運営する特定非営利活動法人（NPO法人）「あいあいねっと」の原田佳子理事長に聞いた。

原田 佳子さん



（広島）な栄レ高わ宮あ理院務テ  
（こ）女学士理のど携連い、学もを  
立大養管けなにをあし、女師育  
よ県立栄の向る事ク「立島講食  
し本県の院者す食人設広講食  
だ。熊本食病版のバ法を。常勤や  
は出身（現校で、高出版者ドO」任。非管え  
島市学。を土ビ者。るすね長学、マ  
島大卒。を土ビ者。るすね長学、マ

## 無駄減らし、高齢者に安心感

フードバンクの仕組みは。日本では販売段階で年間約九十万トもの食品が、包装の印刷不良や仕入れ間違いなどで廃棄される。食べ物に問題がないのに、流通ルートに乗らないだけで処分されてしまっている。賞味期限内でも、企業は食品在庫を管理する手

間やコストを削減するため。製造会社など協力してくれ、福祉施設や障害者の支援団体などに無償提供する。スタッフが約二十人で、医療や福祉の専門家が多数いるのが特徴。企業と会員からの会費や寄付で経費を賄っている。協力企業は今のところ二社だが、環境意識から関心をもち、配送も地元運送会社を手伝ってくれている。企業は廃棄コストを削減できるうえ、ブランドを高めることができる。年間で五十トの提供

### 資金力や人材課題

（記者の目）原田理事長は管理栄養士として、食事に困る高齢者を目的としたのがフードバンクを設立したきっかけ。食物を通して人のつながり

を目標とする」

「食品値上げが相次ぐ。日本は飽食で大量の食物が捨てられるが、食事に困る生活弱者も増えている。介護保険の削減や食品の値上げなどで、福祉施設や弁当配食サービスマも経営に苦しんでいる。高齢者が食べることに苦勞せず、安心して暮らせる社会にする必要がある」

「買ひ物に苦勞している高齢者向けに、提供された食品の配食サービスマを検討している。全国でも初の試みだが、モデルケースになりたい。提供する食品を使った試食会や親子向け料理教室も開きたい。食品に広島弁で元気という意味の「まめ」からとった『まめnan』という愛称を付けた。ロゴも作製し、ポストカードなど関連グッズとして売り出すことも考えている。NPO法人の活動経費に つなげる狙いだ」

が強まれば、「地域活性化の一の手段となる」という。食の安全や食品値上げが社会問題となる一方、食べられる食品が大量に廃棄されている矛盾をどう解決するのか。フードバンクの試みは無駄をなくす一

（広島支局 金子夏樹）

